

# 光が丘周辺地域小・中学校の 学習環境のあり方検討協議会 ニュース

令和元年9月発行  
光が丘周辺地域小・中学校の  
学習環境のあり方検討協議会

第4号

令和元年7月16日に開催した第5回検討協議会では、次に掲げる事項を踏まえ、光が丘周辺地域の小・中学校（光が丘小、並木小、陽光台小、青葉小、緑が丘中）において、今後過小規模校が生じるなどの課題の解決に向けた検討に入りました。

## 課題解決方策の考え方・検討の進め方

### 基本的な考え方

#### 学校規模について

子どもたちが、より大きな集団での学校生活において、多様な考え方に触れながら様々な活動を通じて切磋琢磨できるよう、望ましい学校規模の実現を図る。

#### 小中一貫教育について

子どもたちが、未来を切り拓く力を養えるよう、小中一貫教育の良さを最大限に生かし、より充実した教育を継続的に展開できる環境の実現を図る。

#### 通学時の安全確保について

子どもたちが、登下校において、安心して通学できるよう、通学距離や道路事情などを考慮した安全対策の充実を図る。

#### 放課後等の子どもの居場所について

子どもたちが、放課後や休日も、地域で安心して過ごせるよう、様々な居場所を確保するなど、子育て環境の充実を図る。



### 課題解決方策（案）の検討の進め方について

今後は基本的な考え方を踏まえ、課題解決方策（案）として、複数の具体的な学区再編案等を作成しながら、子どもたちにとって望ましい学習環境を実現する視点をもって、メリット、デメリットを考察し、比較検討を行っていきます。

学校規模適正化に重点を置いた具体的な再編案について、意見交換、検討を行いました。



### 《各委員から主な意見》

#### 学校規模

- 小学校について、4校を2校に再編したとき、2校の児童数が同規模になると良い。
- 小学校について、4校を3校に再編し、今後の児童数の推移を見て、減少傾向が続く場合、さらに2校への再編を検討すると良い。
- 中学校について、学習や部活動で差が生じないように、近隣の中学校と同じ規模になると良い。

#### 学校施設

- 「きこえとことばの教室」などに通級する児童が、引き続き、安心して通学できると良い。
- 学校施設に比較的余裕のある学校に再編すると、校舎、校庭が広くて良い。

#### 通学距離・学区

- 通学距離を考えると、新しい学区の中央付近の小学校に再編すると良い。
- 学区を再編するとき、通学距離があまり遠くならないと良い。
- 通学や放課後の横断を考えると、県道相武台相模原線（村富線）で、学区を分けると、心配が少なくて良い。
- 村富線で学区を分けた場合、児童数に偏りが出て、5年後また再編になる懸念がある。村富線を渡る場合は、通学路の安全対策を強化すると良いと思う。

#### 小中一貫教育・その他

- 小学校4校を小中一貫校にして、中学校の部活は共同で行えると良いと思う。
- 複合施設として、新しい学校体制を作ると良い（小学校内に図書館、公民館、子どもセンター等を併設）。
- 再編後のそれぞれの学区に公民館があると、子どもたちが公民館を利用しやすくなって良い。

今後、この他の学区再編案も含め、比較・検討を行います。

#### お知らせ

「光が丘周辺地域小・中学校の学習環境のあり方検討協議会ニュース」は、光が丘小学校、並木小学校、陽光台小学校、青葉小学校及び緑が丘中学校の保護者の方に配付するとともに、光が丘地域の自治会に回覧しています。

検討協議会の結果概要と資料は、市の行政資料コーナー、光が丘公民館、陽光台公民館、光が丘小学校、並木小学校、陽光台小学校、青葉小学校及び緑が丘中学校でご覧いただけます。

次回（第6回）検討協議会は、令和元年10月上旬～10月中旬頃光が丘公民館で開催予定です。

事務局（お問合せ先） 相模原市教育委員会教育局教育環境部学務課